

■ 2021年度 入試問題分析シート ■

慶應義塾大学

医学部

科目	数学
----	----

総括

試験時間	100分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	150点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

昨年は少し易しめであったが、今年は一昨年以前のレベルに戻った。それでも合格にはかなりの高得点が必要であると思われる。

〈特記事項・トピックス〉

確率の出題が二十年近く続いていたが、今年の出題がなく、かわりにデータの分析が出題された。

積分法の大問がなく、[I](2)の小問に体積の問題があるのみであった。

記述式の設問は[II](2)のみであるが、このように記述が少ないのは近年の傾向である。

〈合格への学習対策〉

場合の数・確率、平面座標、数列・極限、微分法、積分法の占める割合が多いので力を入れて学習する必要がある。難易は一定ではなく、昨年のように易しい年もあれば、5割を確保するのも難しい年もあるので、どのようなレベルの出題でも困らないように日頃から多方面の問題に取り組み、最後まで計算を実行する習慣を身につけておくべきである。過去問とよく似た問題が出題されることもあるので、できれば過去10年分の問題は研究しておきたい。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
[I]					
(1)	空所補充	B	ベクトル	3点の位置ベクトルについての関係式から、三角形の面積を求める。	やや易
(2)	空所補充	III	体積 関数の極限	回転体の体積とその極限について考える。	やや易
(3)	空所補充	I・A・II	集合 2次方程式 複素数と方程式	色々な条件を満たす2次方程式の係数の個数を求める。	やや易
[II]	空所補充 ・ 記述	I・B	データの分析 いろいろな数列	2つの変量の平均値、分散、共分散、相関係数について考え、相関係数の最大値・最小値を求める。(4)は相関係数に関する知識だけで解答できるが、きちんと考えるのは難しい。	標準
[III]	空所補充	II・III	平面座標 2次曲線	2つの塔を見上げる角が等しいという状況から、2つの動点の関係を調べ、一方についての条件を与えたときのもう一方の軌跡を求める。	標準
[IV]	空所補充	III	曲線の媒介変数表示 微分法の不等式への応用 関数の増減	曲線の媒介変数表示を作り、そのx座標がつねに正となる条件やy座標の最小値について考える。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。